



悪質業者の撃退法

「1人暮らしで...などと、自分の身辺のことは話さないようにしましょう」

「どこの会社? お名前は? 用件は?」

「帰ってください!」

「家族に相談するので」

「無料で点検いたします」

「近所で工事をしているので」

「このままだと大変なことになりますよ」

「オリジナル商品です」

「今なら安くできます」



相手が何者かを早めを確認し、はっきりと声に出して断りましょう

もし契約をおおられてもすぐに契約せず、一度時間を空けて冷静に、客観的に考えましょう

理由を付けて家に上がり込もうとする業者は要注意。家に上げてしまうと、断りづらい心理になります

不安をおおる業者は要注意。不安に感じて、その場では契約せず、他の人に相談しましょう

今契約しないと高くなるなどと言って、契約をおおる業者は要注意

「うちにしかない素晴らしい商品」などと言われても、安易に信用しないようにしましょう



聞いたことがない資格や不自然に遠い会社は要注意

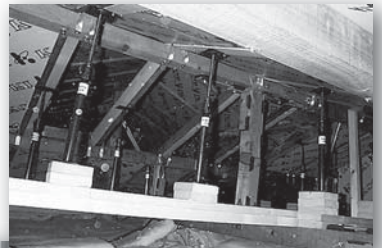
こんな業者は要注意



高齢者を狙った勧誘が増加

埼玉県に住む80歳と78歳の姉妹が、複数の訪問業者に勧められるがまま、3年間で数千万円分のリフォーム工事を繰り返し、全財産を失った事件がありました。姉妹は認知症で身寄りもなく、家が競売に掛けられて初めて近所の人気が付きました。大半が不要な工事で、判断能力のない老姉妹が標的になった形。姉妹に群がった業者と工事額は、契約書などから判明しただけで計14社・約5000万円にも上りました。

このように、高齢者を狙った悪質なりフォームトラブルが多発しています。「工事後、所在不明になる」「契約書に担当者の苗字のみ記載」など、連絡が取れなくなる場合もあり、支払った代金を取り戻すのが非常に困難なことも。トラブルに巻き込まれないように、日ごろから注意をすることはもちろん、家族や近所での見守りも大切です。



▶屋根裏に無数に取り付けられた金具。そのほとんどが意味を成さないもの



◀床下に積まれた調湿剤と無意味に取り付けられた換気扇



契約する、その前に

- ▶その工事が本当に必要かを、あらためて客観的に考えてみましょう。
- ▶1人で判断せず、家族や地域の人など、信頼できる人に相談しましょう。
- ▶仕様を決めて、見積もりを複数の業者から取りましょう。その中で、不要な工事だと気付くこともあります。
- ▶地元の業者で、事務所を構え、建設業の許可を持っているところを選びましょう。
- ▶専門分野の工事は「専門家」に相談、大きい工事は「建築士」を交えて決めましょう。
- ▶着手前に必ず契約書を交わし、内容を確認しましょう。

家のことについて何でも相談できる地元の工務店などの「ハウズドクター」を持つて、長く付き合おうと安心ですね。



状況によって、対応できる相談機関を紹介します。トラブルに巻き込まれたり、「おかしいな」と思ったときはすぐに、消費生活センターへ相談ください。

問い合わせ・相談

盛岡市消費生活センター

☎020-0871 盛岡市肴町2-29

盛岡市役所肴町分庁舎2階

☎019-624-4111 (相談専用)

☎019-604-3301 (代表電話)

Interview



石田隆彦さん

いしだ たかひこ

一級建築士 埼玉県在住

埼玉県で発生した認知症姉妹のリフォーム被害を調査した。震災に便乗したリフォームトラブルを未然に防ぐため、東日本大震災後は被災地で被害予防対策の啓蒙活動を行う。

リフォームの悪質業者といっても、その実態は、悪質商法や振り込め詐欺などを行っているような人たちが、手を変え品を変えやっている場合がほとんどです。巧妙な手口で人間の心理を突いて、心の隙や不安に付け込んでいきます。被害者が口をそろえて言うのは、営業マンが「本当にいい人だった」ということ。一度信用して契約してしまうと、次々に高額な代金を支払わされてしまうことも。安易に信用しない、契約しないことはもちろん、普段から家族会議や地域での井戸端会議をして、情報を共有しておくことが大切です。